



INGING MOTORSPORT



2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. 4 富士スピードウェイ

決勝 7月14日(日)

天候:雨

コース状況:ウエット

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権の第4戦決勝（55周）が、富士スピードウェイ（静岡県駿東郡小山町）で行われ、38号車石浦宏明が7位、39号車坪井翔が2位となり今季初表彰台を獲得した。

#38 石浦宏明 7位

#39 坪井 翔 2位



夜半に大雨の降っていた御殿場周辺だったが、明け方には小降りとなり朝を迎えた。朝8時40分からのフリー走行では、坪井が3位、石浦が9位とまずまずの結果だった。

朝からの雨は、お昼過ぎには一旦止み湿度も減ったことから、天候は回復すると思われた。

しかし、決勝直前に再び降り始めた雨は、瞬間に路面を濡らし一気に本降りとなった。ウォームアップ走行を終えグリッドウォークが始まると、スタッフがマシンやレーシングギアを雨から守りながら決勝に向け準備を進めていた。

午後1時45分、決勝レース（55周）は降雨の影響を鑑み安全を考慮して、セーフティーカースタートとなった。セーフティーカーランを3周で終え、4周目にレースはスタートした。ヘビーウェットのコンディションの中、水しぶきをあげながら、1コーナーに各マシンは飛び込んで行く。坪井は、スタートからポールポジションの64号車の背後にしっかり付いて周回。石浦もスタートの6位をキープのままオープニングラップを終えた。

レース序盤は、トップ以外のクルマは水しぶきで視界不良の為、周回を重ねるにつれ徐々にトップから離れていく。そして、時間が経過するにつれ雨脚も強くなりコース上にクルマを留めるのすら非常に難しいコンディションとなって行った。ホームストレートでは、ウォータースクリーンもますます大きくなり、モニターでクルマを見つけるのも至難の業だった。

坪井は断続的に降り続く雨の中、徐々に離され15周目にトップと約10秒にまでギャップが広がったが、そこからはしぶとく付いて行きこのギャップをキープした。途中、オーバーテイクシステムを使い1分43秒前半で周回、ギャップを若干縮める。25周で8.9秒、26周で7.5秒差まで近づくが、この視界と燃費走行の為なかなか追い付く事が出来なかった。





石浦は、前を行く16号車の背後にピタリと付く。1秒から2秒差で背後を脅かすもなかなかオーバーテイクのチャンスは巡って来ない。そんな中、26周でバトルを仕掛けていく。マシンに並んだもの前へは出られなかった。ポジションが変わらぬまま5位争いの二人の攻防は、終盤まで及んだ。

今回は、ウェット宣言が出されたことで、タイヤ交換の義務が無い為ノーピットで行き燃費走行をするクルマがほとんど。膠着状態で推移するも、レースを折り返すあたりで雨量が増えて来て挙動を乱すクルマも出た。上位陣には特に影響はなかったが、終盤レースに動きが出る。

42周目、2番手を走行中の坪井に3番手の19号車が2.3秒差に迫る。4番手37号車もその背後に見えて来た。しかし、44周目に19号車が給油の為ピットに向かいバトルからは逃れた。この際に、石浦は1つポジションを上げ5番手となる。

終盤、坪井のミラーには37号車がしっかり見えた。アグレッシブな走りで猛追する37号車だったが、ルーキーの坪井は堂々と抑えて見せた。その後は追従を許さず、2位初表彰台を獲得した。

終盤5番手となった石浦にはマシントラブルが発生。どうにか走行を続けたものの48周目に36号車にパスされ6番手にダウン。最後に、18号車にも行かれてしまったが7位でフィニッシュし2ポイントを獲得した。

今回の決勝レース（55周）は、最大レース時間1時間35分というルールにより周回数が52周に短縮された。

長いトンネルから抜け出したチームは、ルーキーの坪井が予選から手堅い作戦で見事表彰台を獲得した。天候に翻弄された要素もあったが、今回2台ともにポイントを獲得したのは良い展開。次戦ツインリンクもてぎはチームにとって得意なサーキットでもある。次こそは、2台ともに表彰台に送り込む予定だ。



ドライバー #38 石浦 宏明

「レース直前はコースが乾いていたので、決勝前の8分間の走行はドライの方向だと読んでいたので、クルマのチェックよりもタイヤの皮むきをしました。クルマのセットもフルウェットではなくドライになることも想定して、どちらも行けるよう中途半端なセットにしました。水が少ないときは良いのですが、多くなると苦しくなる展開でした。レース序盤から野尻選手を追いかけしていました。一度並びましたが、それ以降チャンスを作ることができずに終わりました。そのうちタイヤがブローしてしまい、可梦偉選手や中嶋選手に行かれてしまいました。どちらにセットを振るかというのは、賭けでもありますし悔しさも残ります。しかし、今週は収穫の多いレースウィークでした。次のもてぎは得意なサーキットなので頑張りたいと思います」

ドライバー #39 坪井 翔

「優勝できなかったのは悔しいですけど、表彰台に立つことが出来てうれしいです。内容には満足しています。正直、開幕から3戦までは、まとまらず良いレースが出来なかったのですが、予選から決勝にかけて今日はすごく良いレースができたので、内容には満足しています。アレックス選手（優勝ドライバー）が言うように燃費走行を自分もしていたので、トップに追いつける気配は全くなく、また、最後にキャシディ選手がものすごい勢いで来たので厳しかったのですが、最後2位のポジションを守り切ることが出来て良かったです。」



**監督 立川 祐路**

「坪井が表彰台を獲得できて、チームとしてとても良かったです。燃費走行をしながら、厳しい状況の中、順位をキープしてよく頑張ってくれたと思います。天候がドライになるのか、ウェットになるのか難しいセットをどちらに寄せるのか考えますが、それに関して石浦の方はうまく行かない部分がありました。次は、きっちり戦いたいと思います」

RESULTS/RANKING**正式決勝結果（上位10台）**

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	64	A.パロウ	HONDA HR-417E	TCS NAKAJIMA RACING	1:36'27.150
2	39	坪井 翔	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	13.359
3	37	N.キャシディ	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	14.680
4	16	野尻 智紀	HONDA HR-417E	TEAM MUGEN	50.575
5	36	中島 一貴	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	51.333
6	18	小林 可夢偉	TOYOTA Biz-01F	carrozzeria Team KCMG	52.448
7	38	石浦 宏明	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	55.932
8	19	関口 雄飛	TOYOTA Biz-01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1'09.963
9	5	福住 仁嶺	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1'11.435
10	65	牧野 任祐	HONDA HR-417E	TCS NAKAJIMA RACING	1'18.868

ドライバースタンディング**（第4戦終了時点 上位5名抜粋+）**

Pos	No	Driver	Point
1	1	山本 尚貴	27
2	37	N.キャシディ	22
3	64	A.パロウ	14
4	39	坪井 翔	12
5	19	関口 雄飛	11
15	38	石浦 宏明	4

チームスタンディング**（第4戦終了時点 上位5チーム）**

Pos	Team	Point
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	34
2	VANTELIN TEAM TOM'S	26
3	TCS NAKAJIMA RACING	18
4	JMS P.MU/CERUMO INGING	16
5	KONDO RACING	15